

## 令和元年度 第2回 海老名市社会教育委員会議内容

日時：令和元年8月8日（木）

10：00～12：00

場所：えびなこどもセンター201会議室

### 【出席者】

委員	植松慶子、三部雅世、塩地ひとみ、栗山明郎、森田壽、山田信江
事務局	伊藤教育長、伊藤部長、萩原次長、外村課長、山田課長補佐、小菌主幹、橋本主任主事

### 【議事】

#### (1) 新たな社会教育計画の策定について

概要について事務局より説明

～質疑応答～

委員：社会教育団体の連携を図って、新たな社会教育計画や目指す子どもの姿の共有を図る全体の流れは分かった。

委員：連携を図る活動の中の社会教育団体が一堂に集う機会を作るというのは意味があると思う。現状、社会教育団体が一堂に集まる機会はない。

委員：団体の名前を知っていても各団体がどのような活動をしているかを知らない人が多いと思われるので情報共有の場は必要と思う。

委員：社会教育団体に関わっていない保護者の方への周知も必要。団体が主体で動くので、保護者はそれについていけばよい、と思われてはいけない。巻き込んでいくための活動が必要。

委員：社会教育団体を一堂に集める会議というのは聞いたことがないが、ほかの自治体等での成功例はあるのか？

事務局：調査まではできていない。

委員：団体の活動趣旨が違うため、まとめることは難しいと思う。ただ、意見を聞く場はあっても良い。

委員：全団体を集めるのではなく、まずはグループに分けて集めるのはどうか。

委員：社会教育団体を一堂に集める機会というのは、新しく会議を設けることにするのか？

事務局：まず主体は社会教育委員に担っていただく。また会議については、毎年秋に開催している「家庭と地域の教育を考えるつどい」の門戸を広げて、社会教育団体の方にも来ていただくことを考えたい。

委員：今の「家庭と地域の教育を考えるつどい」はどのような方が参加されているのか？

事務局：主に学校関係者のみで、PTAや教師の方が参加している。

事務局：社会教育団体や保護者の方など、海老名の子どもを取り巻く全体でこの社会教育計画の共有を図りたい。

委員：何か問題があって始める新しいことでなく、海老名の子どもたちのために何ができるかを考えて始めることだからこそ意味があると思う。

事務局：今回も多くのご意見を頂戴したが、新たな社会教育計画の策定概要についてこの方向性で進めてよろしいか伺いたい。

委員：異議なし。

#### 施策について事務局より説明

委員：施策の三本柱としての「子どもと大人がかかわり合う機会の充実」「生涯活動の推進」「地域での社会教育活動の充実」については理解した。

委員：「子どもと大人がかかわり合う機会の充実」「地域での社会教育活動の充実」の一環としての保護者の方や市民の方への発信は、広報紙が重要になってくる。読みたい、と思って頂けるような広報紙を作らなくてはいけない。

事務局：PTA に対しては、年度当初に広報研修会を開催しているが、この研修会を社会教育団体に広げることも検討したい。

委員：魅力ある広報を作成して、広く浸透させることが必要である。

委員：「生涯活動の推進」については、社会教育団体や生涯学習関係団体につながるのがある市民協働部への働きかけをして、関係を密接にしていく必要がある。

事務局：積極的に働きかけて連携を図っていく。

事務局：施策についてもこの方向性で進めてよろしいか伺いたい。

委員：異議なし。